

メダカとカダヤシを見分けるポイント

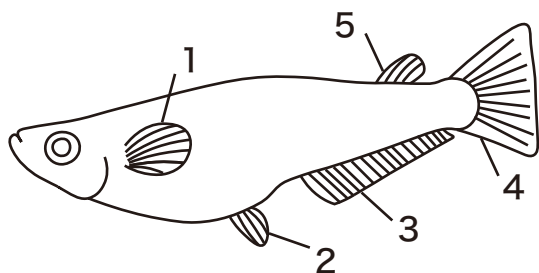
メダカとカダヤシの見た目は非常によく似ています。近年ではカダヤシが水田などによくみられるようになったため、知らない間にメダカと勘違いしているかもしれません。気づかないまま持ち帰って飼育してしまうと、法に触れてしまう・・・？
塗り絵をしながら、在来種と外来種について学びましょう。

★ここを塗ってみよう

1. メダカとカダヤシは鱗で区別できる！

ミナミメダカとカダヤシの体色は非常によく似ており、両者とも全体的に黄土色で腹が銀色をしています。鱗の形状で見分けることができます。まずは、鱗の位置と名前を確認しましょう。

頭のすぐ横にあるのは胸鱗（1）です。カダヤシとミナミメダカの胸鱗の色を一色決め、同じ色で塗りましょう。腹の真下で、肛門の前についている2対の鱗は腹鱗（2）です。カダヤシとミナミメダカの腹鱗の色を一色決め、同じ色で塗りましょう。肛門の後ろにある鱗は尻鱗（3）です。尻鱗はミナミメダカとカダヤシを見分けるのにわかりやすいポイントの一つです。ミナミメダカの尻鱗は長方形で、雄の方が大きく、雌は小さいです。カダヤシの雄の尻鱗は、交尾の際、精子を雌の体内に送り込む必要があるためゴノポディウムという器官に変形しています。また、カダヤシの雌の尻鱗は丸みを帯びています。カダヤシとミナミメダカの尻鱗の色を一色決め、同じ色で塗りましょう。尾の先にある鱗は尾鱗（4）です。尾鱗もミナミメダカとカダヤシを見分けるポイントの一つです。ミナミメダカの尾鱗は角ばっているのに対し、カダヤシは丸みを帯びています。背中についている鱗は背鱗（5）です。カダヤシとミナミメダカの尾鱗と背鱗の色をそれぞれ一色決め、同じ色で塗りましょう。



2. 子どもの産み方は・・・

ミナミメダカとカダヤシでは、子どもの生まれ方が全く違います。メダカは卵生で、一度に10個ほど産卵し、水草などにつけます。卵がついた水草と卵を産み付けているミナミメダカを塗りましょう。カダヤシは、体内で卵を孵化させ仔魚を産む卵胎生という産み方をします。一度に100尾ほど産み、仔魚で生まれてくるのでミナミメダカのように水草などは必要ありません。仔魚を産んでいるカダヤシを塗りましょう。仔魚は薄い灰色で塗りましょう。

3. まとめ

ミナミメダカとカダヤシは外観だけではない違いがあります。それは、ミナミメダカが日本の在来種であるのに対し、カダヤシは特定外来生物であるということです。特定外来生物の文字を赤く塗りましょう。カダヤシはもともと北アメリカに分布していましたが、アメリカから輸入され日本の環境に定着してしまいました。ミナミメダカとカダヤシが生息する環境はほぼ同じなので、一度に100尾以上もカダヤシの仔魚が生まれると、もともと生息していたミナミメダカが生息しにくくなってしまいます。実際にミナミメダカは絶滅危惧種として指定されている場所もあります。水田や川でメダカだと思って持ち帰ってしまわないように、一度必ず確認をしましょう。外来生物法では、飼育・栽培・保管・運搬・販売・輸入などが禁止されています。